

# もしもクルマと話せたら。

もつとく新しい日常が始まる、と言われていきます。それはいったいどんな日常なのでしょうが、「これから先、どんなふうに暮らしては変わっていくのか。そこで熊本トヨタは何をすれば、みなさまや地域や社会のお役に立てるのか。毎日懸命に考えています。」

きくと。クルマには人工知能が搭載され、ネットワーク化も進み、クルマとヒトは今よりさらに近くなるはずだ。安全で快適で充実したものにしてお手伝いができるのではないが、そんなうれしい新しい日常を、今年の熊本トヨタは提案してまいります。

毎日懸命に考えています。

安全で快適で充実したものにしてお手伝いができるのではないが、そんなうれしい新しい日常を、今年の熊本トヨタは提案してまいります。

## やかましもん

梶尾 真治



たごをクルマはすぐに会話に取られる。そして一度学習したことをクルマは絶対に忘れない。

その日は朝から直行の仕事だ。

「ああ！スリーね。うたつて見送る。武者んよかあ！ドライブレコーダーのカメラで私を見たらクルマはそう言った。」

「ああ。取引先の偉いさんに会わなければね！」

「そうだったたいね。はごん少し鬚の剃り残しのある。見る人は見とるけんね。それと整髪料はつけとった方がよかよ。髪はビシャツとしとる方が似合うけん！」

クルマの言うのはよくわかる。だが私はあまり整髪料を使うのは好きじゃない。面倒くさいのでクルマには何も答えなかった。

「で、今日はどこへ行くとね？」そうだ。まだ行き先を告げていなかった。携帯電話に登録している情報をクルマに見せた。

「わかったよ。混んごらんけん(二分か着くよ)」

今日は途中の走行もクルマにまかせせることにした。その間にアレゼンの書類に不備がないか、もう一度目を通しておこうと思っただけだ。私は運転席で書類を取り出した。

「シートベルトせんね」クルマが私に指摘した。あつ、うっかりしてた。

「ベルトはせんね。事故のときは怪我が何倍にもなるだけけんね！」

「はいはい！」

「はいはい！一回でよか。それから運転はまかせて」

「おはよう！元気い！」ドアを開けるとクルマが言った。

「おはよう」と答える。

「調子、ヨカたるね！」とクルマ。

「まあまあだね」

「会社に行くよとね！スタートするけん」いつものようにクルマは走り出す。

初めてのマイカーが納車された日のことを、ふっと思い出す。担当セールスとエンジニアから取り扱い説明を受けた。しかし、ワクワクして半分も耳に残らなかった。「今回のお車はAI搭載です。納車時に一緒に初期設定をやらせて頂きます。基本操作はAIとの会話で行うこととなりますが、自分で運転したいと望まれるときは、そのように切替えもできます。」

この自動車と会話するのか？AIで人工知能のことだよな。これまでも「シートベルトを装着してください」とか「ETCカードが入っていません」とか音声で教えてくれたが、そんな延長で、より便利で安全になっているということだろう。自動車の声は「男性・女性・ジェンダーフリー」から選ぶ。同時に言語も、

初めてのマイカーが納車された日のことを、ふっと思い出す。担当セールスとエンジニアから取り扱い説明を受けた。しかし、ワクワクして半分も耳に残らなかった。「今回のお車はAI搭載です。納車時に一緒に初期設定をやらせて頂きます。基本操作はAIとの会話で行うこととなりますが、自分で運転したいと望まれるときは、そのように切替えもできます。」

この自動車と会話するのか？AIで人工知能のことだよな。これまでも「シートベルトを装着してください」とか「ETCカードが入っていません」とか音声で教えてくれたが、そんな延長で、より便利で安全になっているということだろう。自動車の声は「男性・女性・ジェンダーフリー」から選ぶ。同時に言語も、

初めてのマイカーが納車された日のことを、ふっと思い出す。担当セールスとエンジニアから取り扱い説明を受けた。しかし、ワクワクして半分も耳に残らなかった。「今回のお車はAI搭載です。納車時に一緒に初期設定をやらせて頂きます。基本操作はAIとの会話で行うこととなりますが、自分で運転したいと望まれるときは、そのように切替えもできます。」

この自動車と会話するのか？AIで人工知能のことだよな。これまでも「シートベルトを装着してください」とか「ETCカードが入っていません」とか音声で教えてくれたが、そんな延長で、より便利で安全になっているということだろう。自動車の声は「男性・女性・ジェンダーフリー」から選ぶ。同時に言語も、

初めてのマイカーが納車された日のことを、ふっと思い出す。担当セールスとエンジニアから取り扱い説明を受けた。しかし、ワクワクして半分も耳に残らなかった。「今回のお車はAI搭載です。納車時に一緒に初期設定をやらせて頂きます。基本操作はAIとの会話で行うこととなりますが、自分で運転したいと望まれるときは、そのように切替えもできます。」

この自動車と会話するのか？AIで人工知能のことだよな。これまでも「シートベルトを装着してください」とか「ETCカードが入っていません」とか音声で教えてくれたが、そんな延長で、より便利で安全になっているということだろう。自動車の声は「男性・女性・ジェンダーフリー」から選ぶ。同時に言語も、

もつとくよかけど、走行中の運転席におる間は、目は前方からはなしちゃいかんよ！」

そのように法規で決まっているのは知っている。でも、それだけAIの自動運転を私が信頼しているというごまかしの。

仕事先の用事が終わり、駐車場へと戻る。クルマに乗り込んだ途端にクルマに言われた。

「おめでと。よかつたねえ。相手さんに提案は氣にいられたごたるね！」

「ええっ？なんでわかるのさ？」

「なあん、乗ってきたとき胸を弾ませとつたでしようが。体温も少し上がったね。嬉しくてワクワクしてる反応で思うよ。なら、相手さんに氣に入れたといことな。よかつたねえ！」

クルマは実に嬉しそうに答えた。

クルマの言うことは凶星だ。名探偵なみの推理力だ。そしてクルマは続けた。「次に訪問するときは、髪も整髪料をつけて、もっと、ビシャツしてていくと、よかばい！」

その言われるとクルマのおせうかいぶりが、少し種を離る。この感じ、前にもあったよな。いつだったろう。何のときに感じたか。

思い出せない。

「いちいちうるさいんだよ。言われなくてもわかかばい！」

「うるさいかもしれないけれど、わかなくてもうまで言わないと、やらんでしょが。だから、言いとよー！」

いらつとして発作的にクルマのAI機能を落として運転モードに切替えた。

静かになった。クルマが話さなくなったのだ。これでは自分でクルマの運転操作をやらなくてはならぬ。でも、クルマに言われてイライラすることはない。

そして久々に自分の手足を使う運転は新鮮に感じられた。だが、久々だけにハンドル操作は必要以上に神経を使った。慎重になった。もちろん緊張を伴った。そのたびに何度運転をクルマに代わってもらいたいと思っただけだ。しかし、このときも意地でも代わってもらわなかった。

クルマに対してお節介とも感じる正体は、いったいどこから来ているのだろうか？その何に反発してしまっているのか思い出せずに、もどかしい気持ちのままだった。そのもやもやを抱えたまま、私は自分の手足を使うクルマの運転を続けた。

やがて、元日の朝を迎えた。

独身の私は別に予定もない。布団の中でぼんやりした寝正月の時間を過ごしていた。

枕元で電話が鳴る。出ると弟だった。ずいぶん久しぶりだ。

「兄ちゃん。あけましておめでとう！」

「ああ、おめでとう。珍らしいな。元気が？」

「元気だよ。それよりさあ、ばく年末に家に帰ってみたんだ。そしたら兄ちゃんの話がでた。」

「あ、おめでとう。珍らしいな。元気が？」

「元気だよ。それよりさあ、ばく年末に家に帰ってみたんだ。そしたら兄ちゃんの話がでた。」

「あ、おめでとう。珍らしいな。元気が？」

「元気だよ。それよりさあ、ばく年末に家に帰ってみたんだ。そしたら兄ちゃんの話がでた。」

父さんも母さんも、兄ちゃんどうしてるのかなあって心配していたよ。全然連絡とてないんだ。正月ぐらゐ顔見せてやんなよ！」

電話が切れた瞬間に思った。そうだな。正月くらい、家に帰ってやるか。

正月らしくスーツを着た。そして、父さん母さんの顔を思い浮かべながらクルマに乗り込んだときに、もどかしく思っていたことの正体がわかった。なぜ、クルマに対してお節介と感じたのか？それはクルマが私に世話を焼く様子の中に、母さんを見ていたからだ！

クルマは私の様子から、より私が世の中でうまくやれるようにアドバイスしてくれていたに過ぎない。母さんだつた。それを、口うるさいとか、お節介とか、面倒臭がっていたことを思い出した。クルマが言っていることは、母さんが言っていることだった。なぜ今までそれに気がつかなかったんだ。

無意識のうちに「母さん・・・」と呟き、クルマをAI機能に切り替えていた。クルマの声が車中に懐かしく響いた。

「久しぶりなあ。そしてあけましておめでとう。元気でなにより。さあ、どこへ行くけんね！」

「新年だけ、家に帰ろうと思う！」

「そうね。そらよかねー。皆、喜ばすよ。ご馳走用意して待つとらすよ。でも正月くらいは整髪料つけやあ。うしろ髪立とるけん！」

「やれやれ、相変わらず母さん似の世話焼きなやつだなあ。」

## SF作家 梶尾真治が描く 近未来のクルマとヒトの物語

新春特別付録 QRコードから、物語の新しい扉が開きます。



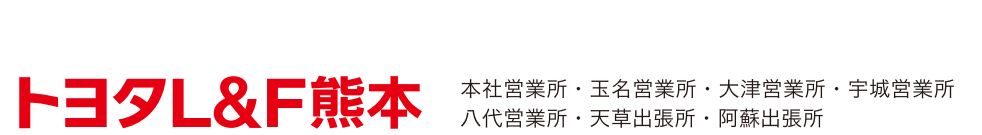
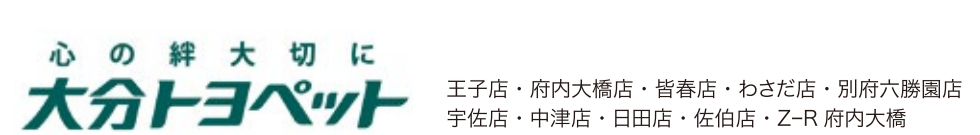
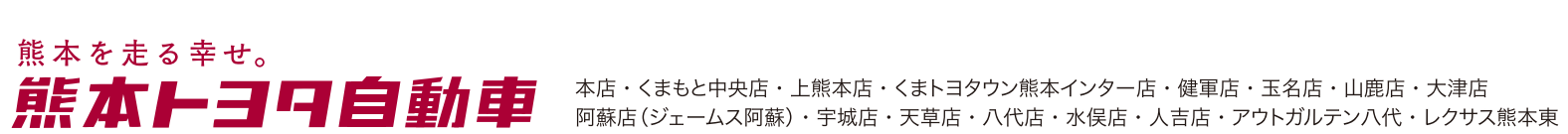
読む 「近未来のクルマとヒトの物語 小説編」 by 梶尾真治



聞く 「近未来のクルマとヒトの物語 朗読編」 by 村上美香 (クラウンアンバサダー)



漫画 「近未来のクルマとヒトの物語 漫画編」 by むらいけんたろう



この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。